

七条中学校だより4月3号

京都市立七条中学校

令和8年4月20日

発行:校長 林 秀雄

あいさつに、心が映る

毎朝、正門や昇降口で登校指導をしながら、私は生徒の皆さんに挨拶をしています。「おはようございます!」と、こちらが驚くほど大きな声で返してくれる生徒がいます。私の姿を見ると、先に気づいて自分から挨拶してくれる生徒もいます。わざわざ近くまで来て、目を見て丁寧に挨拶してくれる生徒もいます。一方で、少し恥ずかしそうに、小さな声だけれど確かに挨拶してくれる生徒もいます。友達とのおしゃべりに夢中で、挨拶のタイミングを逃してしまう生徒。何事もなかったように、そのまま素通りしていく生徒もいます。本当に、さまざまな姿があります。

人は、毎日同じ気持ちで学校に来ているわけではありません。うれしい日もあれば、少し気が重い日もあります。眠かったり、嫌なことがあったり、逆に楽しみなことがあったり…。人によっても、日によっても、そのときの心の状態によって、挨拶の仕方や態度が変わるのは自然なことです。

そんな中、ある朝、心に残る出来事がありました。いつもは小さな声で挨拶をする生徒が、その日は少し顔を上げて、「おはようございます」と言ってくれました。声は大きくなって、その表情から「今日は頑張っておう」と思ってくれたことが伝わってきました。私はその挨拶に、胸がじんわりと温かくなりました。

挨拶は、相手に何かを求めるものではありません。完璧である必要も、無理をする必要もありません。でも、挨拶には「ここにいるよ」「あなたを認めているよ」「同じ一日を始めよう」というメッセージが込められています。挨拶は、誰かとつながる一番シンプルな方法です。そして、その一言で、相手だけでなく、自分の心も少し前向きになります。

七条中学校の皆さんには、「挨拶をしなさい」ではなく、「挨拶をしてみよう」「自分から挨拶してみたい」と、主体的に思える人になってほしいと願っています。相手が先生でも、友達でも、地域の方でも、そして、相手から返事が返ってこなくても構いません。自分から挨拶をしたという事実が、皆さん自身の成長につながります。明日の朝、ほんの少しだけ勇気を出して、自分から挨拶をしてみませんか。その一声が、七条中学校の一日を、そして誰かの心を、明るく照らしてくれるはずです。

チャレンジを、みんなで支え合える七条中学校へ

七条中学校の皆さん、毎日の学校生活の中で、皆さんはどんなことに「チャレンジ」しているでしょうか。授業で勇気を出して手を挙げること。これまでやったことのない役割に立候補すること。苦手な教科に向き合うこと。部活動で新しい技に挑戦すること。チャレンジには、勇気が必要です。うまくいかなかったらどうしよう、失敗したら恥ずかしいな、そう感じるのは当たり前のことです。

ある日、こんな場面がありました。クラスで発表をすることになった一人の生徒が、少し緊張しながら前に立っていました。声も震え、言葉に詰まる場面もありました。すると、周りの生徒が静かにうなずいたり、「大丈夫だよ」というような表情で見守ったりしていました。発表が終わった瞬間、クラスから自然に温かい拍手が起こりました。その生徒の表情は、発表前とはまったく違い、少し照れながらも、どこか誇らしそうでした。チャレンジをした生徒は立派でした。でも、それ以上に素晴らしかったのは、周りで見守り、支え、応援していた仲間の姿です。新しいことに挑戦するのは、一人ではとても不安です。けれど、そばに「応援してくれる人がいる」「失敗しても大丈夫だと思える空気がある」と、人はもう一歩前に進むことができます。

七条中学校では、「できたかどうか」よりも、「やってみようとしたか」を大切にしてほしいと思っています。そして、自分がチャレンジするだけでなく、仲間のチャレンジを温かく見守り、支え、応援できる人であってほしいと願っています。笑ったり、からかったり、結果だけで判断したりするのではなく、「頑張っているね」「挑戦していてすごいね」そんな気持ちを、態度や言葉で示せる学校でありたいと思います。誰もが安心してチャレンジできる学校は、一部の人がつくるのではなく、皆さん一人一人の関わり方で作られます。失敗しても大丈夫。うまくいなくても、成長しています。そして、その挑戦を支えたあなたも、同じように成長しています。

これからも七条中学校が、「やってみよう」と思える学校、「応援し合える」学校であり続けることを、心から願っています。一人一人の小さな優しさと勇気が、七条中学校をもっと温かい場所にしていくのです。